進め！物流部パート2

公平部長の奮闘記

進め！　物流部パート2

公平部長の奮闘記(BS300編)

イケイケ株式会社は15年前よりコンピューター受注システムを導入し
受注センターと物流センターがオンラインで結ばれ　伝票発行される
BS300というシステムが入っていた。

ある朝　そのシステムが起動しない事態が発生した
ネットシステム部が復旧活動を行うもなかなか復旧せず
朝の受注の時間が迫ってきた。

受注センター長の具志堅部長が深刻な顔で公平に言った
「ち・ちょっち　まずいな～　第一便の配達迄復旧無理そうだな～」
「じゃ配達本日無しで・・って訳いかないので　こりゃ最悪FAXですね」
と　いう事で16年以上前の受注方法の手書きFAX作戦が開始された。

受注センターに16年前の実務を経験した人数は少なく
営業部も総出のFAX作戦となった。

そして、その日　大量の手書きFAXがセンターに流れてきた
何が書いてあるのか字が読めないものが多くあった。

FAX　現場名：昨日と同じ
センター：昨日はもっと伝票出たぞ～

FAX　納品場所：セブンイレブン曲がったところ
センター：セブンイレブンは全国6000店舗以上あるぞ～

FAX　商品：　赤い丸い缶
センター：8種類在庫あるぞ～

FAX　住所：　中区3丁目
センター：　3丁目は東京ドーム2個分の大きさだぞ～

こんな混乱の中　なぜかベテラン社員とドライバーは　文句を言いながらも
嬉しそうな顔をしていた　それは　「昔はこうだったな～」という経験値からくる
ゆとりだった。

進め！　物流部パート2

公平部長の奮闘記(BS300編)

手書きFAX伝票を見ると ドライバーは叫んだ。

「この現場は何時も ○○がでるのに△△はおかしい」 と

センター長が確認のTELをしたところ ドライバーが言った通り○○が正しかった
また 確認が出来ない場合 ドライバーを信じ○○を納品した所 正解だった。

「チクショウ～言った通り セブンじゃなくローソンじゃねーかー」と現場で
叫ぶドライバーもいた

東京物流センターでは ベテラン社員の山藤さんが伝票解読作業に入った。

「この営業の この表現はこの商品 ハイ」

「この商品名は昔のよび名 今はこの在庫商品 ハイ」

「この受注センター員の社歴から見て手書き経験しているのできっとこっち ハイ」

「彼は新人 名称間違い この商品にこれは繋がらない こちらと勘違い ハイ」

など 名人芸の解読を行っていた。

名人曰く「伝票には顔がある 顔が見えるんだ」と

結局 この日 多少の遅延はあったが 誤配率は0件だった
何事もなかったように配送を終えたドライバー
公平は改めて ベテランのすごさと 現場の力強さを またまた実感した。

進め！　物流部パート2

公平部長の奮闘記(さくら咲く編)

「やりました～合格しました　さくら咲くでーす」
と　センター所員からまた報告があった。

イケイケ物流部では　危険物乙4種と毒劇物取扱責任者の資格取得を推奨していた
「教育は力」 公平は自分は資格持っていないのに所員には勧めた。

一人が試験合格すると
ニュースレターの「明日の風」に大きく取り上げた。
それを見た他の所員が　知らず知らず　自分も挑戦とチャレンジを始めた。

推奨している資格以外に、埼玉の大林所員は運行管理士に挑戦し合格した。

公平は人に資格を取る事を進めるだけでなく
やはり自ら見本として挑戦してる姿を示さないといけないと思った。

そこで公平はユーキャンの雑誌に目を通した。

ここはひとつパッチワークで皆を驚かそうか　と考えた
子供に、それとなく「どんな資格を取ったらいいと思う」 と聞いた

「おとうさん　字が汚いので　ぺん習字にしたら」
と　即答され　子供がのびのび成長しているのがわかった。

中国語講座にしようかと考えたが
社員から「店で実戦しているのでいいんじゃないですかハウティン」と言われた。

やはり　物流関係でないと話にならないと　悩んだ末に
ビジネスキャリア検定　ロジステックス管理　ロジスティックスオペレーションの
取得を目指した。 3年かかり　休みは図書館に受験生と交わり机を並べ結果
ロジステックス管理3級　ロジスティックスオペレーション3級　マーケティング3級
を取得した　そしてこの3年間で現場の資格取得者が大幅増となった。
公平は今　密かに　太極拳指導員を目指している。

現場所員　57名中

	2009年	保有率	2011年	保有率	増加人数
危険物	29名	50%	41名	72%	12名
毒劇物	8名	14%	12名	21%	4名

進め！　物流部パート2

公平部長の奮闘記(受注センター研修編)

各所員が他のセンターへ行き　他のセンターの良い所を学ぶクロス研修を
一通り終えた時　公平は思った。

受注センター部の人間も　毎日物流センターと一番電話のやり取りが
多いのにお互いを知っていない事を・・

公平は具志堅受注センター長に　東京物流に受注センター員を
お招きし　研修することを話あった。
「ち・ちょっち　いい案だね」
という事で　研修がスタートした。

お互い会った事が無かった、受注センター員と物流現場員が顔を合わせた
特に研修では午前便のドライバー同乗配達の研修に人気があった。

はじめての現場での納品の実体験　荷物の運び方　時間に追われながら
裏道を安全運転するドライバーの姿を助手席で体験し
ああ　電話で問い合わせていた自分達の内容はこうだったんだ　と
想像から現実へ脳に刺激が走った。

そして、女性の受注センター員が同乗する場合の朝　ドライバーの車は
ピカピカになっていた。

いつも鬼瓦のような怖い顔をしていたドライバーが、その日だけ　娘さんを見る
優しい目になり　物流所員が見た事も無い　丁寧な言葉と安全運転で
現場に向った。

研修員が　物流現場を理解した　実物の在庫　荷姿　重み　伝票名称
ピッキング　積込　最終お届けの配送実態を経験し
お互いの関係性が深まった。

「〇〇さんをもう一度助手席に乗せて配達したいな～っ」と　恥ずかしそうに
指名する、ドライバーも現れた。

公平は思った
改善の基本はやはり下心だと！

進め！　物流部パート2

公平部長の奮闘記(新センター開設編)

十数年来の悲願だった。
2010年4月　神奈川県に関東6ヶ所目の横浜物流センターがオープンした
神奈川のエリアは伸びていたが　神奈川をカバーする現物流センターの
老朽化と手狭さが以前から問題となり　新センター開設が急務だった。

イケイケ物流センターは　その扱い商品より　危険物倉庫が必ず必要だった
危険物倉庫建設には　その土地の用途が　工業または準工業用地でないと
建設は不可能だった
新センター希望エリアは　その工業・準工業用地が極めて少なく限られていた。

年々マーケットは伸び　社内からも早く新センターが欲しいとの声が大きくなった
公平も前任者から引き継ぎ店舗開発を進めた　何度も不動産屋等を
尋ねた　何度も紹介物件を検討した　社内からは　諦めムードも流れた。

何度も　訪問するうち　公平はそのエリアを不動産屋より熟知した
紹介図面をみて　その近くの風景が浮かんだ　相場賃料　道路付　交通アクセス
誰よりエリアを詳しくなりピタットハウス公平と名乗った。

公平が探し初めて　具体的情報として80件を超えていた時
全く思いもしなかった所から　まさかの物件紹介があった
広さ　間取り　立地　賃料　すべて100点だった
あとでわかることだが考えると当時の社会情勢等幸運な風が吹いた。

但し　大切な事は　公平は「諦めない　必ずつくる」と固く心に思っていた

2009年10月より　東京の海野所員を新センター長に抜擢し　全センター長
ベテラン社員と共に　新センター開設に向け準備を始めた　新センター長も
必死になって取り組んだ　ベテランも多くの知恵を出してくれた
開設前は工事等のからみで徹夜作業も発生した　雨で工期がずれ
ぬかるみでの在庫搬入となった

そして今　神奈川を牽引する　大センターとなった

2010年4月　開設記念で各仕入先様から頂いた中の　バキラの観葉植物は
今　公平の机の横で　青々とした葉を輝かせている。

進め！　物流部パート2

公平部長の奮闘記(3.11編)

その日　巨大な地震が日本を襲った！
2011年3月11日　14時すぎ　公平は新橋の本社にいた。

突然大きな揺れを感じ　ビル全体が異様な動きをした
悲鳴を上げる　女子社員　皆あわてて外に出た。

界隈の会社　全員が外に出ていた
好奇心旺盛な　公平はなぜかカメラを持ち　トイレ　壁　はては社長室まで
覗き込んだ　額は落ち　壁に穴はあき　このダメージは相当だと直感した。

あわてて各センターへ安全確認するも　まったく電話が繋がらない状況だった
街一杯に不安感が広まった。

家族に連絡をとる人達が、唯一繋がる公衆電話に群がった。

公平はFAXなら通信可能かと考え、全センターへ安否確認のFAXを入れた。

しばらくすると　社員全員OK　ドライバー2名　未確認　　商品落下破損36缶など
はしり書きの　返FAXが入ってきた。

会社は　早期に　女子社員を中心に帰宅を進めた
但し　交通期間はマヒし道も大渋滞となった。
その頃になると　震源地が東北地方で被害の映像がTVから流れて来た。

最終的に全センターの安否確認が終了したのは　19:00を回り
ドライバー1名のみ　額に軽傷を負っただけで　公平はひとまず安心した。

関西の北・春川両所長からは「急ぎ　水を送ります　他何が必要ですか？」
のFAXが入ってきた。

徹夜を覚悟した公平は　腹ごしらえに食堂に入った
そこのTVから流れる映像は
まさに映画の「デイ・アフタートゥモロー」の様だった。

この時飲んだ苦いビールの味は一生忘れないだろう

進め！　物流部パート2

公平部長の奮闘記(3.11編)

その後　携帯電話が少しずつ繋がるようになってきた。
東京物流センターの武士所長から連絡があった時　お台場で火災が発生
していた　お台場に近い　東京物流もシンナーが100缶程破損し
ほとんどの所員が残り　タオル片手に拭き取り作業をしていた。

武士所長が　王子所員にコンビニに食糧の調達を命じた。
1時間後　王子所員は涙目で　ソーセージ3本と酢昆布2箱を握りしめていた。

ソーセージを8等分し　22時にシンナーの拭き取り作業は終了した時
お台場方面は、まだほんのり赤い空だった。

道路は液状化で水があふれ　マンホールが隆起し　傾いた電信柱があった
車は通行不可能の状態だった。

公平は本社に仲間と泊まった
頭の中は　明日以降の物流部の業務をどうするかで、一杯だった。

明けて12日土曜日　朝5時　徹夜の武士所長から連絡があった

「所員8名　何とか元気です　但し本日の配送業務は絶対不可能です」

公平は　現場の声を　社長に連絡し本日の物流業務中止の件を
各関連部署に連絡した。

その日　3月12日は　公平の長女の中学の卒業式だった。
ボーッとした頭の中で「来てね」の娘との約束を思い出した。

交通機関が少しずつ復旧に向かっている情報が入った
「一旦　帰ろう」と　電車を乗り継ぎ通常の倍の時間で戻り
ひげ面でそのまま　卒業式に向かった。

悲鳴の混ざった　揺れる体育館で聴いた「仰げば尊し」は
一生忘れる事は無いだろう。

進め！　物流部パート2

公平部長の奮闘記(3.11編)

明けて13日　日曜日
公平は　全センター長と今後の件を打合せた。
もちろん鬼平さんに　一番最初に連絡をした。

鬼平さんからは　適格なアドバイスがあった　頭の中でどうするかの
具体的イメージが絵になって浮かんで来た。
さすが鬼軍曹　関東大震災の時働いていたんじゃないか？と感心した。

そして、そのアドバイスを元に　全センター長と連絡を取った
全センター長が　公平からの電話を待っていた。
全センター長も　今後の物流業務に関しての見解は全員一致していた。
公平はその時　皆で力を合わせれば乗り越えられると感じた。

14日　月曜日
カバンに、下着とハミガキを入れ　作業服姿で始発に乗った。
減速運転ながら　止まらずに　7時前に本社に着いた。
そして、7時半過ぎ　緊張した面持ちで　本社物流部の
細廣リーダーと森橋(もっちゃん)両名が指示はしていないがいち早く出勤してきた。

公平は、その時　物流部は勝てる　と確信し
「さあ　これから　楽しくなるぞ！」と声を掛けた。

当日より　すべてのエリアは　予定通り　1便配送とした。

市場は　今後の材料確保の懸念より　多くの注文が入った
繁忙期並みの忙しさになった　2トン車に積みきれないオーダーとなった。
東京物流は　液状化によりセンターに繋がる3本の道が1本しか走れなかった。

あっと言う間にセンター在庫が薄くなった。

但し　メーカー発注しても　地震の影響で　メーカー自身が品薄の状態となった。

また　ガソリン不足が日に日に強くなり給油が難しい状態となり
まさに　物流配送にとって深刻な問題となった。

進め！　物流部パート2

公平部長の奮闘記(3.11編)

公平は毎朝　FAXで　ドライバーのガソリン状況を確認するのが日課となった
ドライバー20名中　満タン:12名　半分:6名　1/4:1名　ランプ点灯:1名　など
連絡が入った。

「ランプ点灯大丈夫なの？」と聞くと
何とかしますとのドライバーの返事　その頃のドライバーは早朝ガソリンスタンドに
1時間並び10リッターのみ給油とか　夜遠出し20リッター給油など
各ドライバーが情報を共有し給油活動を行っていた。

赤ランプで飄々と配送に向かう　ドライバー勉ちゃんの姿があった
「大丈夫なの～」と聞くと
「赤ついてから42キロは走るから今日の伝票ルートなら途中で何とかなります」
と　綱渡りの心強い返事。

震災3日後　少し弱気になっていた公平は
ドライバーの銀さんに「給油大丈夫？」と聞いた。

銀さんからは　気合の入った怒り口調で

「公平さん　ダメですと言う答えは無いんです　我々ドライバーは
入れるしかないんです」と

まるで　坂の上の雲「日本海海戦」
バルチック艦隊を対馬沖で、やきもきして待つ松山参謀に対し
東郷元帥の「対馬から　来るっちゅうたら来るんじゃ」と
同じような　力強い言葉を受け　感動
「ホント最高だな　うちのドライバー達は」と公平は　漏らしそうになった。

結局　復旧するまでの約1ヶ月　すべてのドライバーはバンザイする事無く
配送をやり抜いた。

ドライバーから勇気をもらい
「よし　やるぞー」
と　思っていた矢先

あわてた声で　千葉物流の森所長より・・・

進め！　物流部パート2

公平部長の奮闘記(3.11編)

あわてた声で　千葉物流の森所長より・・・

「突然　停電しました～っ　電話一っ・FAX一っ・BS300一使用不可～っ」
「視界不明一　波高し一」
そう　噂のロシアンバルチックルーレット無計画停電に当たりました。

時間もオイシイ第一便受注の真っただ中　どれだけの受注残があるのか不明
2時間じっと耐え　復旧時に一挙に伝票を出し　そこから詰め込み配送へ

毎日　ステキなロシアンルーレット
戸塚物流と千葉物流が同時で2発停電した時は　天に向かい
「神様一っ　アリガトーーーッ　面舵いっぱーい」
と　叫びました。

製造プラントを地震でやられたメーカー品は相変わらず品薄が続き
今までに取引の無い所から　種々商品が入庫されてきました。
同じ　ブルーシートでも　今までは2社で扱っていたのが　10社となり
同じ寸法　同じ色　違う色　同じ厚み　違う厚み　値段が違うなど
現場での　在庫管理の腕の見せ所となり　日頃の4Sが試されました。

9ヶ月後の　2011年12月の棚卸において前回よりも差異件数が減少した時
現場4Sが習慣にまで落とし込みされている事が証明されました。

現場は　繁忙期並みの忙しさとなり　人手が足らない状況になりました。
パンク寸前の　埼玉物流が悲鳴を上げました。
実直な竹石所長から　初めて弱気の発言を聞いた公平は
即戦力という事で　2ヶ月前に　嘱託定年　大送別会を開いた後さんを思い出し
「後さん～　明日からアルバイト　力貸して一」
と　連絡しました
「え一っ　明日から一　わかった【明日の風】送ってもらってるから
明日から行くよ～」
と　心強い返事
そう　公平は退職した人にも　明日の風　を毎月郵送し　OBとの
ネットワークを作っていました。

よし　将来はシルバー人材センター長になろうか・・とその時思いました。

進め！　物流部パート2

公平部長の奮闘記(3.11編)

震災後
ガソリン問題で、毎日配送体制確認をしている時

「なんだかんだいっても、物流部は使えない奴が行く所だろ―」

と 過去に言っていた 営業部の人間が、一番早く部下を連れて
物流センターに配達の応援に駆け付けてくれた。

「俺は 商品の二次検品も出来るぞ この状況でお客さん回っても
仕事なんかないよ」と 一週間も 配達応援をしてくれた。

購買部からも 商品コードの統一で 在庫管理がしやすい工夫の応援
が入った。

受注部からも 朝の商品入庫に関して統一ルール作りなど
関連部が連携を強化した

ある種の熱気が、毎日の現場と本社で起こった。

公平は 早く 事態が収拾し 落ち着いて欲しいと思う気持ちと
この熱気 面白い もっともっと色んな事 ドンドン来い 熱よ冷めるな
という 不思議な気持ちになっていった。

アラン曰く
「安定は情熱を殺し 緊張 苦悩こそが情熱を産む」

ラストワンマイルのテーマ

「いつか 熱狂が過ぎ去り あたりに人がいなくなっても
自分の中に 火種を見出せたら それこそは 本物の情熱である」

「人は自分が期待するほど自分を
みていてはくれないが がっかりするほど
見ていなくはない」 幻冬舎

進め！　物流部パート2

公平部長の奮闘記(3.11編)

毎日　市場は少しずつ　沈静化を取り戻してきた。
日本経済の底力　各メーカーが　知恵を絞り　生産体制を驚くほど早く
立て直して来た。

2週間が過ぎる頃には　ガソリンも安定供給の流れが見えてきた。
停電対策で　よく停電に当たる　センターは　先に一時閉鎖し　震災対策品の
備蓄倉庫に運用を変え　停電対策のリスクを減少させた。

通常物流オペレーションに向けて　物流現場は急ピッチで動き始めた

但し、その頃の　現場の末端は　疲弊していた。

熱のある人間　声をからした人間　目をまっかにした人間があちこちにいた。

ある時　路線便業者も少しずつ復旧し　通常の85%の配送めどが立った時
受注センターより希望のあった　他センターの在庫を　他センターへ運ぶ
倉移管の業務を再開した

再開を決定した当日　埼玉の所員達が
「倉出しをする　マザーセンターの東京が心配だ」
と　まっかな目をして言った。

公平はその時
「俺は　まっかな目をした　お前達の方が心配だ」
と　心で思った。

そして　自分が大変な時に　人の事を大変だと思える　現場の人間が増えた事に
感動し　成長した所員達を見て　涙が漏れそうなった。

今回は　下からの漏れでなく　目からの漏れで少し安心し

「よし　今日も頑張るぞ！」と
またまたトイレに駆け込む　公平だった。

（パート2：完）

【最後に】

4周年記念として　小冊子「進め！物流部　公平部長の奮闘記」を
作成致しましたところ　多くの方々から　面白い　是非　パート2を
早く出して下さいとの声をたくさん頂きました。

予想を超える　高反響を受け　また　あの3.11での出来事は
何等かの形で残したいと考えていましたが　重い内容なので
躊躇もしていました。

この度　明日に向かって走れ　休刊に伴い
パート2を　一騎に書き上げました。

尊敬する　起業家　神田　昌典さんが

「ビジネスの本質は、価値観を共有する人々の
コミュニティをつくること」

と　言われました

物流部の　この52ヶ月は　その挑戦でした。

まだまだ挑戦は続きます。

今まで　御支援　御協力　本当にありがとうございました。

最後に東北地方の1日も早い復興をお祈り申し上げます。

2012年6月吉日
化研マテリアル株式会社

坂本　尚也
sakamoto@kaken-material.co.jp